

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 縄文

いろんな考えがあるから面白い
いろんな人がいるから楽しい

No. 683

2024年7月

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

も・く・じ

- 人口減少(鏡ミチ) 2
- たなばたのクベ 裁縫の上達願ひ 5
- 「楠木正成(上下巻)」ほか 6
- お便りから 10
- 戦争の思い出 12
- 「台湾有事は日本有事」か? 13
- 「軍事要塞化」進む石垣島 14
- 自衛隊の「先祖返り」が続く 15
- 山仕事(6月、大平) 16
- 原発の「経済効果」に異論噴出 18
- アイスランド、国会議員の半数が女性 20
- 二人の女性受賞者 21
- 機能性表示食品、根幹は変わらず 22
- 会費制をやめます 23
- け・い・じ・ば・ん 24



故郷の人
話したるも
山頭火

泉ゆきを『じはいつも山頭火』
日本習字普及協会

6月23日 現在の
会員数 190名

この見本誌をみて新たに

「読んでみようか」という方は、

年会費 4,000円を

郵便局で 10540-52760981

(鈴木厚正の口座)

へ 振り込んで下さい。

題 字 敬 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト 敬 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リングラフ RZ 330

※ この号の切手は、
グリーンアップ セレクション デザイン

山仕事(6月、大平)

このところ疲れがたまっている。朝起きても、以前のようにさっぱりしない。心臓のせいではなく「お出かけ」が過ぎたことにする。そんなわけで近頃は「動けるうちに」と前のめりの感があり、気をつけないと。

6月12日(木)。前日、テニスに行くとき、稲毛駅での人身事故で遅刻した。そこでいつもより30分早く家を出た。果たして、三鷹や大船あたりで支障があったが、/本早い9:27発の「こだま」に乗れてしまった。

掛川駅で康江、原田、山崎さんと合流。天浜線敷地駅で正土、久米、若林さんに迎えられ、買物の後、作業にかかると。

この日は、浅田さんの休耕田①の草刈り。正土さんは内勤で外は竹中さんが加わり5名で。手練れが揃い、早くに終る。終了間際、若林さんが田んぼに隣接した数本の柿の木の下を刈っていると、そばの家から西田さん出てきた。そこは西田さんの土地なのだ。何か言われるかと思ったら、逆に感謝された。西田さんは、今年90歳になる女性。足腰はまだしっかりしているが、斜面の作業はきついという。

康江、久米さんが調理した夕食を、お母さんと頂く。

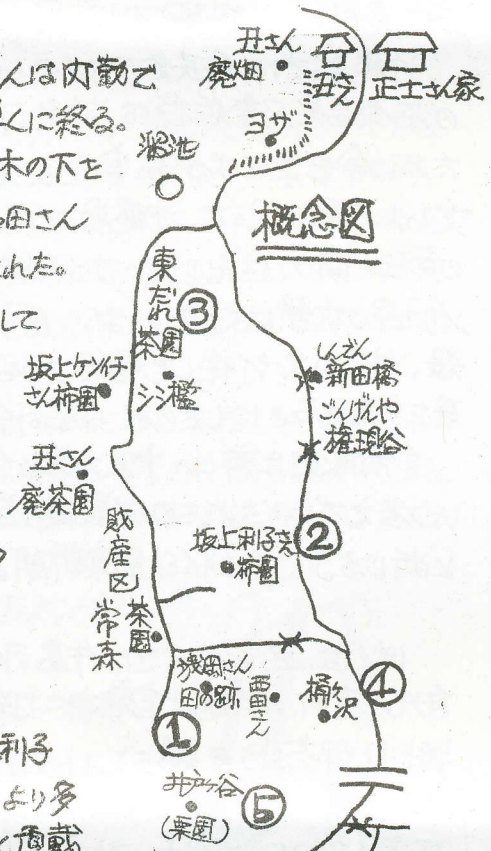
(夕) 刺し身(キハダのたたき、本マグロ)、シラスと大根おろし、空芯菜炒め、トマトのサラダ、マイタケのから揚げ、紐文の「カニカマボコシラベル」、コンブ炒め、キュウリの梅肉和之にソーメンを久米さんのツユでいただく。

今回も母屋で。

6月13日(木)。山本真由美さんが参加。午前中、坂上利子さん宅②周辺の草刈り。終了後、坂上さんから前回より多い2万円を頂く。以前は固辞したが、近年はありがたく頂戴して「猫の手基金」に積み立て、機械の購入やチェーンソー、草刈り機の燃料代に充てている。坂上利子さんも88歳。杖を使うようになり、猫の手の助けが嬉しいようだ。

(昼) ソーメン中華風味、キュウリの梅シソ和え、袴田さん提供のトウモロコシ(甘々娘)。午後は、東だれ③の草刈りと竹伐り。今年生えた竹はすでに葉を開きかけている。お母さん、青山さん、袴田さんが加わった夕食は、

(夕) マアジの大葉煮、シーチキン入り玉子焼、ナスとピーマンのみそ炒め、インゲンのゴマ和え、インゲンのショウガ醤油、ポテトサラダ、ズッキーニとシメジ炒め、トマトとシラスのサラダ、青山さんのシタケ菜揚げにとろろソーメン。分量ともに充実している。



若林さん、夜帰宅。

6月4日(金)。晴れて暑くなる。朝、体が思うように動かない。油の切れたロボットだ。

この日は二手に別れ、原田、竹中さん(ハンマーナイフ:手押し草刈機使用)は、桶ヶ沢④の草刈り。山崎さんとぼくが井戸ヶ谷⑤の栗園で枯れ木の整理。これは早く終り、桶ヶ沢の応援に。ここは、2年前?の洪水で崩れた敷地川左岸の改修工事が始まっている。かなり大きな木が生えていたが、根こそぎ押し流されたのだ。11時、作業終了。

その間に、水窪(みさくぼ)から舟屋千づる、熊谷道子、竹中礼子、中谷今朝菊さんがご馳走を持って見え、皆で頂く。

(昼) サバ竜田揚げ、中谷さん栽培のキクラゲとザアサイの炒め物、切干し大根煮、芋がら(里芋の茎を干した)煮、水窪ジャガタ(小粒の在来種)の煮ころがし、熊谷さんが群馬高原の帰りに買った花豆を煮たもの、キクラゲと酢の物、キュウリの酢の物、レタスのサラダ、こしりエンドウ(舟屋さん栽培、サヤの端を手でつまみ、サヤと実を歯でじいて食べる)煮、玉ネギの王子とじ、トウモロコシとソーメンと豪華だ。例によってぼくは食べ過ぎ。帰宅した夜と翌朝を欠食した。

敷地駅で正士、スミ、若林さんと水窪の昔乙女4名に盛大に見送られ、天浜線の車中に。ホームのベンチに置いた荷物を東江さんがトリに戻り、発車が10秒遅れ。

頂き物

- ・ 内田美智子さんからお饅頭
- ・ 青山さんから原木シタケ
- ・ 竹中さんから甘夏
- ・ 橋田さんからトウモロコシとセキバシ
- ・ 浅岡さんからつまみ、焼酎、のどごし
- ・ 西田さんからキャベツとキュウリ
- ・ 坂上利子さんから2万円
- ・ 坂上賢一さん(故人)のお嬢さんから、お茶、菓子

お饅頭に入っていた内田さんのメモ。

「コロナがほぼ終って、コンサートが目白押しになりました。千円で立派な生演奏を聴けることも多く、元気が出ます。皆様汗をかきますね、あせもが生まれるよう」 いつも、ありがとうございます。